

質問回答

平成 25 年 12 月 24 日

キルギス国ビジネス振興のための投資可能性情報収集・確認調査

(公示日 : 平成 25 年 11 年 27 日) について、以下のとおり質問いたします。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	5 頁 ~ 6 頁 第8 プロポーザルの評価 1 プロポーザルの評価基準	(2) 評価対象とする業務従事者の予定人月数について5.12M/Mとなっておりますが、これはMAXの値でしょうか。この値を超えた予定人月数の提案は可能でしょうか。	評価対象とする業務従事者の予定人月数5.12M/M を超えて提案することは可能です。
2	19 頁 19 頁 2. 業務量の目途と業務従事者の構成(案)	評価対象となる業務従事者の業務内容について例えば「ア総括」がビジネス分析1~3の一部を担うことにより、業務量が増えることで、上記の5.12M/M を超えることは可能でしょうか。	評価対象とする業務従事者の予定人月数5.12M/M を超えて提案することは可能です。
3	評価対象者1名が評価対象外の業務を兼務する場合の、評価対象人月数の制限の緩和の有無について	総括が、評価対象外業務従事者担当業務(1 担当部分)を兼務し、4 名として団員構成を提案する場合において、指示書P6(2)「評価対象とする業務従事者の予定人月数 5.12M / M」を超えて提案することは、可能かどうかについて。	評価対象とする業務従事者の予定人月数5.12M/M を超えて提案することは可能です。
4	19 ページ「(2)業務従事者の構成」	業務従事者の構成にて、「ウ 業種別ビジネス分析 1(農業、畜産業、食品など)」と「エ 業種別ビジネス分析 2(工業、食品加工、建設業など)」とあります。 「ウ」の食品と「エ」の食品加工の違いは、前者が野菜等の農作物や肉類等、後者はその加工品を含む加工食品との理解でよろしいでしょうか。	そのような理解となります。ただし、専門分野の観点から農作物や畜産の専門家が食品加工までフォローした方が良いということであればその限りではありませんので、配置できるコンサルタントの方の専門を鑑みて適宜調整していただければと思います。
5	プログレスレポートの製本状態について	左記レポートについては、正式な製本とするプログレスレポートのか、簡易製本かについて。	プログレスレポートは簡易製本でお願いします。

6	業務指示書 19 ページ「第3 業務実施上の条件」の「1. 調査工程」	「2014年7月末までにファイナルレポートを作成・提出する」とありますが、契約期間は8月末まで、との理解でよろしいでしょうか。	契約期間は8月末までの理解でよいです。
7	P.3、3.業務従事予定者の経験、能力等、(2)評価対象業務従事者の経験、能力等、3)語学力(語学は認定書(写)を添付)英語	認定書の提出は必須でしょうか。実務上、全く支障なく英語での業務(読み・書き・話し)が遂行できるものの、語学認定試験を受けたことがなく認定書がない場合は、評価に影響をきたすのでしょうか。	認定書の提出は必須ではありませんが、認定書がない評価となります。(参考までですが、コンサルタント等契約におけるプロポーザル作成ガイドライン(2013年11月)の業務実施契約におけるプロポーザル評価の視点 27ページ(3)語学力に、以下の記載があります。「英語について認定書の添付がなく、英語圏への大学留学経験等もない場合、50%以下の評価とする。認定書の添付はないが、英語圏への留学経験がある場合は大学卒:75%(TOEFL550点)、大学院修了:85%(TOEFL600点)程度を目安に評価する。」)
8	P.14、オ.関係機関への質問状の作成・配布	「キルギスは露語圏であり、現地調査でのヒアリングに想定以上の時間が必要となる傾向あること、質問状や収集資料の翻訳に時間を要すること、～」と記載されていますが、現地調査において日本から露語通訳を備上、もしくは現地で英 露語(もしくは和 露語)通訳を備上することは可能でしょうか?	日本から露語通訳を備上し同行させることは、費用が高額となることから想定しておりません。現地での和露通訳、英露通訳の備上は可能です。ただし、質の高い和露通訳の数は限られています。
9	セミナー開催準備について	JICA国内拠点などと連携しつつ開催とあるが、セミナー参加者の集めることは、JICA側で行って頂けるのか。また会場準備は、コンサルタント側の業務となりますか。	会場の確保やセミナー参加者の募集等については、極力 JICA の方で対応する予定です。コンサルタントの皆様には、調査結果の報告、質疑応答の他に、フライヤーの作成、セミナーの議事進行等でご協力いただくとこと想定しております。

以上